

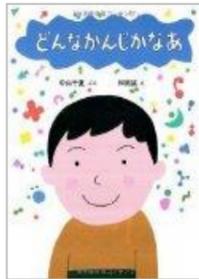
新入生ブックフレゼントリスト20

このリストの中から1冊選んでください

*タイトル、作者等、出版社、出版年



ももたろう
まついただし/文 赤羽末吉/画
福音館書店 1980
桃から生まれた桃太郎。力強い少年に成長して、鬼退治をするという有名な昔話。最後にお姫様を連れて帰るやさしさがさらに感動的な一冊。



どんなかんじかなあ
なかやまちなつ/作 和田誠/絵 自由国民社 2005
考えさせられる、どきどきする絵本。あたり前のことでも、気づいていないことがたくさんある。相手と同じ立場や気持ちになってみることの大切さをあらためて気づかせてくれる。



じゅげむ
川端 誠/作 クレヨンハウス 2003
落語で有名な「じゅげむ」の本。ゆかいな絵を見ながら「じゅげむじゅげむごころのすりきれ・・・」家族みんなで声を出して楽しめる言葉あそび絵本



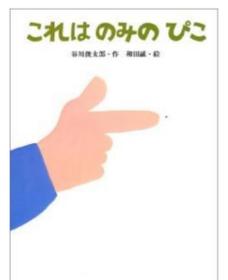
ふたりはともだち
A・ローベル/作 三木 卓/訳 文化出版局 1978
仲良しのがまくんとかえるくんが主人公。どんな時もお互いを思い合う友情のすばらしさをほのぼのと伝えてくれる。心がやさしくなれる絵本。



いのちのまつり
草場一寿/作 平安座資尚/絵
サンマーク出版 2004
はかりしれないほど長い時の流れの中で、ずっとずっとつながってきた「いのち」。いのちのつながりの大切さを描いた絵本。あけてビックリのしかけ付き。



あいうえおの本
あんのみつまさ/作 福音館書店 1983
安野光雅/作 福音館書店 1983
左ページにはひらがなの一文字。右ページにはその音で始まるものの絵。縁飾りの模様の中にも隠し絵が…。遊び心が溢れる美しくユニークな絵本。



これはのみのびこ
谷川俊太郎/作 和田誠/絵
サンリード 1979
「これはのみのびこ」「これはのみのびこのすんでいるねこのごえもん」と増えながら続いていく。つながっていく言葉の積み重ねやリズムが楽しい絵本。



王さまと九人のきょうだい
若島久子/訳 赤羽末吉/絵 岩波書店 1978
顔も体つきもそっくりな九人の兄弟が、それぞれに身につけた力と知恵で難問を切り抜けて悪い王様を打ち破る。子ども達に絶大な人気を誇る中国民話。



からすのパンやさん
加古里子/絵と文 偕成社 1973
からすのパンやさんが作ったパンとは…。いずみが森に住む4羽のかわいい子がらすたちの活躍が描かれている絵本。



かいじゅうたちのいるところ
M・センダック/作 じんぐうてるお/訳
富山房 1975
いたずらっ子のマックスは、狼のぬいぐるみを着て大暴れ!!!
どうとう寝室に放りこまれてしまいました。かいじゅうの国を訪ねる楽しい絵本。



しずくのぼうけん
M・テルリコフスカ/作 うちだりさこ/訳
福音館書店 1974
村のおばさんのパケツからびしゃんと飛び出した水のしずくは、長い旅に出る。たった一滴の水、されど地球を廻っているのがわかる科学絵本。



じゅうにし 十二支のはじまり
岩崎京子/文 二股英五郎/画
教育画劇 1997
子どもたちにとって年賀状でしか出会えない十二支。なぜ12種類の動物なのか、イヌがいて猫がいないのか、わかりやすく丁寧に説明した絵本。



ろくべえまってるよ
灰谷健次郎/作 長新太/絵
ぶんけんしゅつぱん 文研出版 1978
犬のろくべえが穴におちてしまい、さあたいへん。はやくたすけてあげようと、ろくべえを救出するために子どもたちはいろいろ考える。やさしさや友情が伝わる絵本。



番ねずみのヤカちゃん
R・ウィルバー/作 松岡享子/訳
福音館書店 1992
家の人に見つかったら大変。末の子ねずみヤカちゃんは声が大きいのので、いつもお母さんねずみにしかられる。ある日そんなヤカちゃんが大活躍。



おおかみと七ひきのこやぎ
グリム/原作 F・ホフマン/絵
せたていじ/訳 福音館書店 1967
七匹の子やぎが家にいると誰かが戸をたたく。次々と姿を変えて来る狼。子やぎがどうとう戸をあけてしまうと、入ってきたのは…。



エルマーのぼうけん
ルース・スタイリス・ガネット/作
渡辺茂男/訳 福音館書店 1985
勇敢な男の子エルマーは、どうぶつ島に捕えられているかわいそうなりゅうの子を救うため、旅に出かけることに…。危機を乗り越えての冒険物語。



じめんのうえとじめんのした
A・E・ウェバー/作 藤枝浩子/訳
福音館書店 2001
動物や植物の地面の上と下での様子を単純な絵でわかりやすく描いている。動物・植物の違いや自然界の連鎖についても理解できる。



くんちゃんのはじめてのかつこう
D・マリ/作 まさきるりこ/訳 ベンギン社 1982
くんちゃんのはじめて学校に行き、新鮮な気持ちで学んでいく。新しく1年生になる皆さんも幸せで豊かな学校生活を送ることができそうです。



てぶくろ
ウクライナ民話 E・Mラチョフ/絵
うちだりさこ/訳 福音館書店 1995
おじいさんが落とした手袋の中に、森の動物たちがぎゅうぎゅうづめに入った。さあ！手袋は一体どうなるのでしょうか？ハラハラドキドキです。



ラチとらいおん
M・ベロニカ/文・絵 とくながやすもと/訳
福音館書店 1979
世界中で一番弱虫のラチ。ところが、小さならいおんと過ごすうち…。自分を信じる勇気を持つ大切さを気付かせてくれるとても温かい絵本。

このリストは学校の先生、図書館に関わる人たちにより選ばれました。

このリストに掲載されている本は、各市立学校図書館、市立図書館（3館）に展示していますので、参考にしてください。

- 選定にあたり大事にしたこと**
- ① 児童が身近な大人と楽しみ、より深く豊かな読書活動が行えるような、発達段階に合った優れたもの。
 - ② 長い間読み継がれたもの、近年出版された本の中で今後も子どもの支持を受ける可能性の高いもの。
 - ③ 絵本・幼年童話・昔話・ことば・詩・日本の作品・外国の作品・科学よみもの等、幅広い分野から選定。

